

こんごうじ 金剛寺の詳細説明

○名	称	金剛寺 ごぶつどう やくしどう あか いや ごまどう ほうぐくら くもんじどう かいさんどう 五仏堂、薬師堂、闍伽井屋、護摩堂、法具蔵、求聞持堂、開山堂、 ほうぞう きょうぞう べんざいてんしゃほんでん はちだいいりゅうおうぜんによりゅうおうしゃほんでん 宝蔵、経蔵、弁財天社本殿、八大龍王善女龍王社本殿、 てんしやうこうだいじんしゃほんでん ついじべい ちんじゆみくまりみやうじんしゃほんでん 天照皇大神社本殿、築地塀（二所）、鎮守水分明神社本殿、 ちんじゆ に う こうやみやうじんしゃほんでん ちんじゆしゃはいでん ちんじゆしゃしやうろう きゆうりしゆいんおもてもん 鎮守丹生高野明神社本殿、鎮守社拝殿、鎮守社鐘楼、旧理趣院表門、 きゆうしんぶくいんおもてもん みなみもん そうもん 旧真福院表門、南門、総門	
○所	在	地	大阪府河内長野市天野町 あまのちやう
○所	有	者	宗教法人 天野山金剛寺

説 明

(1) 金剛寺の概要

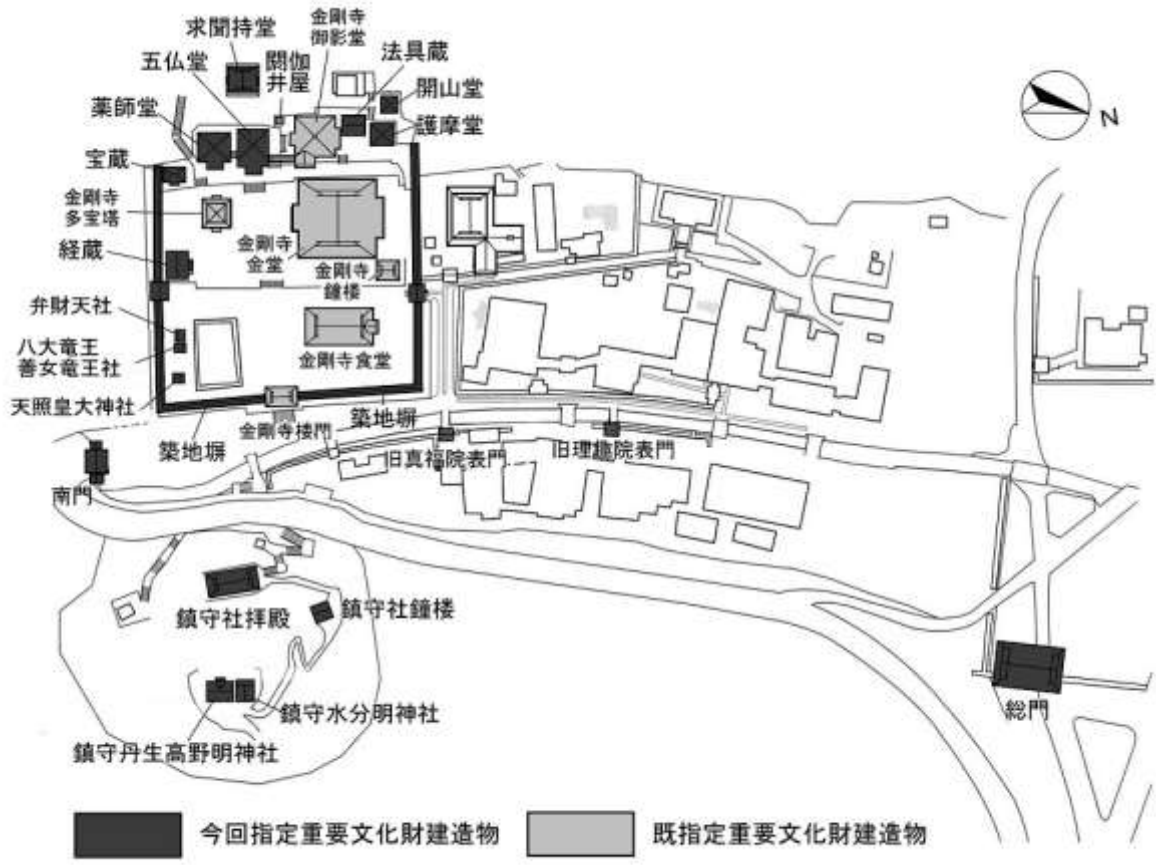
金剛寺は河内長野市の西方に位置する真言宗の寺院です。平安末期に高野山から阿観あかんが入り伽藍を整え、室町末期には子院90余を数える大寺院に発展しました。その後慶長10～11年（1605～1606）には豊臣秀頼とよとみひでよりにより伽藍が整備され、片桐且元かたぎりかつもとを奉行として修理された、金剛寺金堂・金剛寺多宝塔・金剛寺食堂・金剛寺楼門は、すでに重要文化財に指定されています。

(2) 指定される建物について

金剛寺境内にはこれまで指定されている建物の他にも歴史的な建物が、数多く残っています。阿観の創建と伝わる五仏堂・薬師堂は、慶長期に再建され、護摩堂、法具蔵の他、伽藍の東側に位置する天野山には鎮守社が建立されました。およそ100年後の元禄13年（1700）には、徳川綱吉とくがわつなよしの命により岸和田城主岡部長泰おかべながやすを奉行として、境内建物が修理されるとともに、求聞持堂、開山堂が建立されました。

このように、金剛寺境内の骨格は、江戸中期までに整えられたものであり、諸堂とともに、中心伽藍や子院を画する築地塀や門は静謐な境内環境を創出しています。また中心伽藍と向き合うように位置する鎮守社も山岳寺院における鎮守のあり方を偲ばせています。

以上のように金剛寺境内には、江戸中期までに建立された建物が群をなして維持されていることに高い価値が認められ、国宝及び重要文化財（建造物）指定基準の「(3) 歴史的価値の高いもの」と評価され22棟が指定されました。



金剛寺 建物配置図



金剛寺 中心伽藍



五仏堂



(右) 護摩堂 (左) 法具蔵 (上) 開山堂



(右) 鎮守丹生高野明神社本殿 (左) 鎮守水分明神社本殿



総門

まにいん 摩尼院の詳細説明

- 名 称 摩尼院
- 追加指定される建物 おもてもん、ついでい (二所)
- 所 在 地 大阪府河内長野市天野町
- 所 有 者 宗教法人 摩尼院

説 明

(1) 摩尼院の概要

摩尼院は金剛寺の子院の一つで、中心伽藍の北側に敷地を構えています。室町時代前期には南朝の^{ごむらかみてんのう}後村上天皇の^{あんぐう}行宮が置かれたと伝わる有力な子院です。慶長期建立と考えられる書院が、すでに昭和40年に指定されています。

(2) 追加指定される建物について

今回追加指定される表門と築地は、元禄年間の建立と考えられ、金剛寺における大規模な境内整備と同時期の遺構です。表門は金剛寺境内に散在する^{やくいもん}薬医門のなかでも高い格式を示しています。

以上のようにこれらの建物は、江戸時代中期の境内景観を色濃く示すものとして、国宝及び重要文化財（建造物）指定基準の「(3) 歴史的価値の高いもの」と評価されました。また追加指定することですでに指定されている摩尼院書院と合わせて保護の措置を図ります。



摩尼院 配置図



摩尼院 書院（昭和40年指定）



摩尼院 表門・築地塀